夕刊
磐城新聞
四月一日發行
（日曜祭日翌日休刊）

# 春の感情　四

岡　浩

惠笑は、上手にまん丸く盛り上つた背中の背を着物でかくして、時々僕に言ふんです。

そん時、みんなあたしのこともう死んぢまうんだつて言たの、妾もこれで死ぬんかと想うと少うし悲しかつた。だけど、ぽつくりこのまゝ死んぢまうかとよく考えて見るとお可笑くなつて大きな聲で笑ひたくなつちまつたんです。

だけど、笑えなかつたの死んぢまう病人に笑ふ力が有る筈なのね、ただ笑ひたかつたつてゆふ氣持の問題よ。とにかくそんな氣でなんにも考えないで落付いつちまつた譯ね、そしたらその明日から、ずんずん身体がよくなつちまつたんです不思議ね。

それから長い間寢たまんま、こんな身体になつちまつたでせう。

でも平氣だわ、そん時から姿わ、妾自身の生きる道いわば哲學、こんな言葉少し生意氣、そ言つたものが有るやうな氣がして、そいつを考えながら生きてるんだもの。

色々、女つてものについて考える時があるわ。女だもの。そ言ふ時わ、笑ふの。妾の場合、笑ふことは世の中の色んな、汚い關係に對して、なにか知ら高い所に有ると言た自分の誇りなの、いわば精神的に妾は世の中に勝つたと言た氣持ちね、この氣持どう。そて言て、惠笑は笑ふんです。

ほんとうのこと、僕は惠笑の場合こんな生意氣なドグマな理屈を、どつかの醫學博士が決定的なものとした結核患者に有りては殊更に戀愛やセックスに對して鋭敏になるものであると言ふ論説で、何とか、こまちやくれを惠笑の理論を粉砕してやることは考えてるんだが、そんな風に取り澄ましてゐたい惠笑の感情にぶつつかると、なんにも言えなくなつて、えらいね、そんな氣持ち、なかなか持てないんだがなんてごまかすんです、美枝は、何時でも好い氣でジヤズつてるのが好きな子なんです。

いつかなんか、僕が屋根を一枚ほんのチヨツピリふいてあるだけの風呂ん中で少しぬるいお湯を我慢してると、美枝があたいたいてあげるわと言て、親切に火を燃し始めたのはいゝんだが、其所の薪んとこに腰かけて歌ひ始めたんです。

氣の好い僕は、美枝の目の前で身体を洗ふのを少し許り遠慮して、だん／＼おしりの方から熱くなつてくるお湯にたつと辛抱してつかつてたら、おしまいに眞赤にのぼせてもう少し、美枝が好い氣で歌つてようものなら、僕はそのまゝ卒倒するとこだつたつけ、阿母さんが來て、まだ焚いてんのかいつて言たんで、美枝の奴あらつと言て飛上ると宏ちやんあつかあなかたつて聞くんです。

で、僕は眞赤になつた身体を半分だして、も一寸焚かなきや蛸にならないよと皮肉ると、さつぱり感じないで、其奴がお可笑いつて笑ふんだからやりきれない

## 磐新歌壇

小山田滋選

○ひんがしの國のしづめとたゝなはる筑波の嶺ははつ空に見ゆ　大野聖郎

○うらうらと春の日照れり川の面に魚のはねる音のさやけさ　榮三郎

○ひとところにあつまりあつて餌をつゞく、鷄にも俺にもぬくい春の陽　坪松一郎

○入日さす冬枯岡に頰白は時折來き鳴きをしにけり　飯村長四郎

○霜白き朝の光りはさしそめて牛舎の牛はいともおとなし

## 垣根（二）

原田小太郎

垣根の外を
子供が通る
何だか大ごゑ
さわいで通る
和尚さまの
お耳につらい。

## 一年生

弟ガ一年生ニナリマシタ。
一年生ハ
早ガヘリ
十時スギタラ
モウクルヨ
ゴチソコサヘテ
カアサンハ
ソツトデテミル
カドグチヘ。

## 社會の今日

4月2日 ―△聖德太子憲法十七條を定む（推古帝一二）△京都の沽酒を禁ず（嘉元三）△航空母艦『龍驤』進水式（昭和六）△青森縣下北郡大畑村新町から出火三百五十戸燒く△農安の匪賊總攻擊、敵潰走し戰はずして入城△間島の形勢危殆に瀕し在留邦人保護の爲朝鮮軍の一部隊派遣（同七）

○
うちつゞく山田に一つ水車、ゆるき音たて春の日深し　清水乙女

かくれんぼ人隠しやる花の森　徂春

…（童謡詩）…

## 講談　お蘭陀お蝶（290）

渡邊默禪作　布施長春畫

折柄、ボーンぎくりとして目を擧げた、再びボーン、ボーン、氣立ましい合圖のどら、すわやと飛揚る機會に光るばかりの式臺の板を踏込つてばたりどんと尻を擡いた

『おゝ痛ッ』

慌てゝ起揚つて

『やア／＼ア、いづれも敵が見えたッ、お出會なされお、お、お出會なされつ』

大音聲、坐睡連中、ぎよつとして躍り上つたが表の方はひつそり閑、足音一つだにせぬ、是れはと怪しんでゐる所へ、しとやかな足取で這入つて來たのが薄化粧の鮮かないでたちをした女一人、それがお蝶である

一同は只とあきれた

お蝶はうやうやしげに小腰を屈めて

『少々お頼み申しまする』

『何かお取込の御樣子でその中へ押附がましくお願ひ申すも、誠に恐れ入りましたことで御座りますが先生さまが御在宅ならば一寸御目通りを致したう存じます手前は先日お伺ひ申しましたお蝶と申すものでとしとやかな口上

鑼の音に驚かされて胸どきどき、手鎗をしごき銃を構へて戰鬪準備をした門弟們も此の有樣に何のことだと目引袖引き、武平奴何を感違ひして合圖をしたのか軍の作法を知らぬ奴だとゴト／＼つぶやいてゐる。

『む、さてこそ』

逸平は玄關先に仁王立になつて圓い目をくる／＼と轉した

『方々御油斷あるな、先づ物見を放つて陣立備の樣子を探り、不意に起つて打つて蒐る敵の計略、むゝすいさんなるぞ、女の間諜汝等如き手に乘つて城の機密を敵に洩らす我ゝではない。清和源氏九十九代の後胤、藤原逸平爲朝此處にあり、假令百萬騎を以て押寄せるとも此の木戸一歩罷り通して相成らうや、足下の弱るいうちに消えてなくなれ、かゝカッカッ』

女と見て急に氣が強くなつたのか、ぎくりばたりと一人で芝居をしてゐる

『オホヽヽ、何を彼仰るのでございます、敵の計略だの百萬騎だのと、講釈師熱にてらつしやいますが、何かうなされたやうな事を言つ軍さごつこでも始まるので御座いますか、それならお邪魔になつてもお氣の毒ですから早く先生にお過せ下さいまし』

お蝶は京扇で胸を煽いだ

『先生に逢ひたいなど、大膽不敵なことを申す、先生は只今お留守ぢや罷り歸つて左樣申せ、假令先生御不在にもせよ、屈強の門人五百餘人の手勢を以て相堅めたからには龍車に向ふ蟷螂の斧敵はぬところと觀念して速かに陣を引けとな』

『オホヽヽ、何の事ですか私しには分りません、先生が留守ならばお歸りになりまするまで、こゝでお待受いたしませう、皆さま御免遊ばせ』

お蝶は突いと式臺に上つて板敷の眞中へ坐り込んだ

『こりや、歸れといふのに歸らぬかッ』

『はい、時が參れば歸る折もございませう』

『彼の樣な不貞腐れを申し居る歸らぬとあれば生擒つた上人質にいたすが宜しいか』

『人質なりと竹筒なりと御勝手になさいませ』

『打つた斬るぞ』

『とがもない者を斬つてよいといふ御上のお許しがあるなら御心任せにお斬りなさいませ』

『ふ、ふ、不屈なことを……さて／＼舌の長い奴だ』

## 青い灯（五）

八幡秋月

朗かに笑つて、事もなげに言ふ耕一の胸には不安と失望とがもつれながら渦卷いた

――今夜もあや子は藤本と、何處のホテルのベットで――そんな事を想ふと耕一はたまらない嫉妬にムラと胸は煮へかへつて來るのじあつた

美和子は耕一が今そんな事に胸を咬まれてゐるとはもとより知らない

媚びた目で耕一をみつめながら

『どうですか、あやしいもんですわ』

『ハハハア……。大變に信用がないな』

と、耕一は胸の苦しみを押しかくして上べだけ、もう一回朗かそうに笑つて

『ほんとうサ　僕アカフェーだつて此處より外には知らないんだぜ』

『ほんと？』美和子はワザトラシク目を大きく見開く

『ほんとうサ』と耕一は急に冗談らしく

『第一美和ちやんの樣な人があるんだもの他所の店なんか、覗く必要がないよ』

『まア、お人違ひで御氣の毒ね』

美和子の目は意味深く笑つた

取り樣によつては嘲笑してる樣にもとれた。

『は、は、は、はッ』

大きく笑ふ耕一の聲はひどく空虚だつた

耕一自身の耳にもその空虚な笑ひ聲は、しやにむに飛び込んだそして小まくを透し胸に響いて胸の淋しさ惱ましさを益々募らせた

――そうだ、檻に人が遊ふ、俺はお前の樣な御多福になんぞ用はないのだ！俺の用のあるのはあや子なのだ、だがそのあや子は――張りのある美しい聲と淋しすぎる樣な、それでゐて大變にチャーミングな眸と、吸つたらたまらない味の出そうな唇とをもつてゐるア――……俺のあや子は此の俺を失望の淵に突き落そうとしてゐるのだ、俺は今俺のあや子のために絶望の谷に落されかけてゐるのだ、いや既に落されて仕舞つたのだ。

だが俺は上るぞ絶望の谷からハヽ上るぞ、勇敢にハヽと上るぞ、泣かないぞ、悲しみなんかしないぞ。

廣告

平町田町
井坂醫院
電話　五五九番

平町新川町
木村病院
電話　一六四番

◎品質保證付！
學生用腕時計特賣
各種時計豐富取揃へました腕バンド付
◎一割引奉仕いたします。
金光堂時計店
平五丁目　電話一九五番

成田山大護摩修行團体募集
一、四月三日　午前七時二十五分平驛發
　　四日　午前成田解散
一、會費　金八圓五十錢也
但片道汽車賃、車中晝食費、成田宿泊及茶代祝儀大護摩修行諸費及箱札代、一等坊入料及祝儀、其他解散迄の諸費一切を含む
（準備の都合あり至急御申込みを乞ふ）
成田山大新榮講平講中講元
三月吉日
井上貞治郎
平・五丁目

櫻花廣告燈募集に就て
例年の通り平の花をより以上美化し町の繁榮を謀り度主催致しました何卒多數御申込を願ひます。
一、殊に本年は公園に假ホームを設置尚平藝妓連の新曲手踊等にて觀客を歡迎する筈ですから廣告として一層効果が有ります。
一、當組は特に左記破格料金にて奉仕致します。
　岐阜提灯　壹燈ニ付　金壹圓五拾錢
　六角雪洞　壹燈ニ付　金貳圓貳拾錢
一、本廣告燈は櫻花滿開の頃を見計ひ十日間點火致します。
一、募集締切は四月二日
主催　平消防組
後援　平町役場

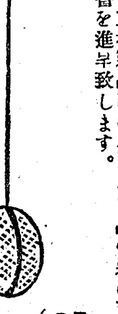
草野局電話開通
一　草野村役場
二　高岡文夫
三　（久）鈴木材木店
四　草野小學校
五　赤塚自動車部（赤塚半五郎）
六　神谷村役場
七　豊田惣次郎（カドヤ）
八　芳賀義雄（マノメヤ）
六〇　局事務用

毎度御ひいき有難ふ御座ゐます。
うなぎ御用命は
うなぎ　奴
平町田町（電話二二一番）
ホール御座敷の設備あります。皆樣の御立寄を！

新製品發賣!!!
コーヒー通待望のコーヒー來る……！
ジヤバ
モツカ
グアテマラ
本場コーヒー三種配合挽立
……1/4封カン入三五錢
　　1/2封カン入七十錢
味覺滿點

香味本位の本場銘茶を召上りませ……
電三九六番
平三丁目
大勝園

出來ました
御持兼の世界的大流行の玩具の王樣『ヨーヨー』が出來ました、各特約店にて御求めを乞ふ。
當工場製品には『ヨーヨー』の遊び方説明書を進呈致します。
製品に御注意を願ます。
ヨーヨーの……定價　金廿錢　金三十錢　金五十錢



募集廣告
一、挽物製作徒弟　五名
一、木取手見習　一名
右ハ本年尋常又ハ高等卒業ノ者、身体建固ニシテ意志强固ナル者
右希望者ハ自筆履歷書ニ學業成績表ヲ添ヘ至急御申込ヲ乞フ
各種挽物、丸盆類、木製教育玩具家具附屬品一式製店
佐藤挽物製作所
平町十五丁目三十番地
電話（ヤマ）又ハ（カノ）
特約店
いづみや玩具店
金太郎玩具店
森下玩具店
立花屋商店
イワキ屋便利店

通學服大賣出
新學期も近づいて參りました。
坊ちやま孃ちやまの可愛らしい通學服を色々取揃へて御座います。
◆男兒用
小倉服………80ヨリ
同特製……1.90ヨリ
紺サージ…3.60ヨリ
◆女兒用
紺サジセーラー服……3.60ヨリ
綿セルセーラー服……1.30ヨリ
防水マントモ種々取揃へて御座います。
ふかや洋服店　平二　電203

江戸前
當店に於て自慢の
大蒲燒
割烹
壽司
開業以來
特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町
魚榮
電話四二四番

# 郡下の清酒造石高が 既往十數年間に約半減
## 税金を了した釀造界の昨今

平税務署管内の四十酒造家は昨三十一日迄七年度第四期分十三萬千七百十四圓四十三錢の納税を濟まし七月の八年度第一期まで悠々税金の心配は無く何れも一安堵の態である、因に大正八年の最高レコード五十四場當時の査定石數二萬八千四百二十九石に比べると約半減營業者は十二場を激減してある、大正八年以來の累年比較次の如し

| 年次 | 場數 | 石數 |
|---|---|---|
| 大正8 | 五四 | 二八、四二九 |
| 昭和元 | 五三 | 二一、三三七 |
| 2 | 五〇 | 二一、二二五 |
| 3 | 五〇 | 二一、〇〇五 |
| 4 | 五〇 | 一八、九五八 |
| 5 | 四八 | 一二、七九五 |
| 6 | 四六 | 一四、三三六 |
| 7 | 四二 | 一四、七九二 |

# 鑛産税好成績か
## 昨日納税終了の八年度分 國庫町村合計八萬餘圓

常磐炭鑛の鑛産税は近年の不振續きから毎年納期迄の納入は約半額で手古摺つて居たが去月末納期の平税務署管内三十四鑛の賦課額は七年度採掘高百七十五萬九百三十八噸價格八百四十六萬一千四百四十五圓に對する税額八萬四千六百餘圓で半額地方委譲の關係から各方面に分割納入された爲め目下取纒め中であるが最近の炭界好轉から幾分好成績を豫想されて居る

# 實現すればとて ホームは出來ぬ
## 花季中の鐵道臨時施設

平驛では今月の花見時季中下り方面の觀櫻客の便利を圖るべく公園地先へ臨時停車の計劃を立て上司に稟請中であるが認可さるるにしても傳へらるゝが如き假ホームといふ樣な大袈裟なものではなく波立藥師の際に於ける假停車と同程度のもので驛前商店の反對に對して後藤驛長は

實現されれば客は公園で降りるが乘車は其處からさせぬから殆ど影響はあるまいと思ふ

と語つてゐた

# 小學教員大異動
## 郡下關係では 退職四名、轉任六十九名

昨三十一日午前八時發表された縣下小學教員大異動は退休職者百六十二名、總異動數五百八十七名で前年に比し退職五十一名・異動百十八名を減じてゐるが郡下關係の分次の如くである

退職校長
合戶 根本 俊治
內郷 仲村辰四郎
同上代用教員
澤渡 佐久間敏郎
豐間 竹原 忠男

校長轉任

| 新 | 舊 | 氏名 |
|---|---|---|
| 渡邊 | 石神 | 鈴木永名次 |
| 豐間 | 磐崎 | 大平喜一郎 |
| 鹿島 | 磐二 | 小泉 義浩 |
| 磐崎 | 赤一 | 安藤 力 |
| 內三 | 大浦 | 柴田 正則 |
| 大浦 | 鹿島 | 根本喜代一 |
| 合戶 | 箕二 | 高木 徳良 |
| 赤一 | 豐間 | 作山 一枝 |

訓導轉任

| 新 | 舊 | 氏名 |
|---|---|---|
| 泉 | 日橋 | 鈴木 正 |
| 同 | 福島 | 大塚 操 |
| 渡邊 | 大越 | 松田 吉興 |
| 植田 | 神谷 | 西郡喜與志 |
| 同 | 四倉 | 猪狩 貞夫 |
| 錦 | 大越 | 松田 孝子 |
| 山田 | 片門 | 若松 郁哉 |
| 勿來 | 田人 | 宮城 みよ |
| 磐崎 | 大野 | 佐藤 晉吉 |
| 勿來 | 湯本 | 正木 榮 |
| 上遠野 | 大枝 | 田中 重三 |
| 川部 | 內郷 | 志賀 爲彥 |
| 平一 | 棚倉 | 仲村 三郎 |
| 同 | 高久 | 松崎吉太郎 |
| 同 | 泉 | 佐藤 乘介 |
| 同 | 四倉 | 石山 くに |
| 平二 | 石神 | 星 德 |
| 同 | 神谷 | 橋本 正雄 |
| 同 | 錦 | 海野 磐男 |
| 平三 | 內三 | 菱沼 儀 |
| 高久 | 瀨川 | 渡邊 利雄 |
| 豐間 | 大野 | 鈴木 次 |
| 同 | 永井 | 鈴木 涓 |
| 江名 | 玉川 | 竹原 しや |
| 鹿島 | 石神 | 佐藤 武藏 |
| 玉川 | 永田 | 秋田 信男 |
| 磐崎 | 磐二 | 吉田 孝平 |
| 磐一 | 江名 | 高木つるよ |
| 湯本 | 勿來 | 仁平 次敏 |
| 同 | 小川 | 大野 正 |
| 神谷 | 四倉 | 野 幸一 |
| 內郷 | 青木 | 高橋 宮雄 |
| 內一 | 好間 | 小林 明良 |
| 內二 | 四倉 | 石山 晃男 |
| 同 | 磐崎 | 山崎 廣元 |
| 同 | 平窪 | 高木 勝男 |
| 好間 | 豐間 | 木村 智 |
| 赤一 | 平一 | 矢野 かね |
| 赤二 | 瀧根 | 佐藤 きん |
| 澤渡 | 廣野 | 佐藤 隆丸 |
| 三坂 | 上遠野 | 三倉 盛威 |
| 神谷 | 下太田 | 佐藤 篤 |
| 四倉 | 粟野 | 油井 利惠 |
| 同 | 內二 | 飯塚文之助 |
| 四倉 | 植田 | 小野 海 |
| 大野 | 豐田 | 草野 明位 |
| 同 | 大野 | 廣野 橫田 正夫 |
| 大野 | 下長 | 高木 清志 |
| 平窪 | 小川 | 上川 きよ |
| 小川 | 廣瀬 | 佐藤 勝彌 |
| 小川 | 穗積 | 江尻 ゆき |
| 小名濱 | 下太田 | 渡邊武雄 |
| 同 | 玉井 | 秋元 孝亮 |
| 大浦 | 磐一 | 藤田 昇 |
| 四倉 | 大浦 | 助川 光夫 |
| 勿來 | 大野 | 瀧 忠哉 |
| 大野 | 磐崎 | 菅野 貞信 |
| 湯本 | 內二 | 小宅かねえ |
| 內二 | 湯本 | 鈴木 仁 |
| 內郷 | 相馬高女 | 佐藤 清照 |

# 磐中人國記 (九)
赤井嶽男記

## 第九回生の卷 I

◇『鶴仙』の松本氏

再た銘々傳に逆轉する。既記銘釀『白馬の雪』の松本徳一氏と同じ平窪村に之亦吟釀『鶴仙』の松本(舊姓石井)金一郎氏がある。近き將來に於ける磐中出身最初のアドミラル高木大佐と同じ大野村玉山[illegible]で早大商科を卒業後松本家を嗣ぎ一時入山炭礦の用度係などを勤めたが其後家政の拾收上家庭の人たるべく餘儀無くされ爾來帳場格子の前に地味な酒屋の主人公振りを發揮してゐる

◇安島勿來町會議員

勿來町の味噌醬油釀造業安島商店主安島久氏は一年志願の野砲兵少尉として曾ては西伯利亞に出征し息凜る曠野に雄々しい武者振りを見せた。と云ふ在郷軍人としては先づ以てAクラスの輝かしい經歷の持ち主。現勿來町議十七名中の新智識として一たび十二番の議席に起つて咳一咳、酸素の如く古刀の如き明快な口調を以て相手の咽喉笛に食ひ下る侃諤の論鋒は宛然所謂『猛虎一聲寒月高し』の概を示し、親戚中の投票で辛じて當選[illegible]た時代錯誤的一部議員をして悚然慴伏せしむるに充分なるものがある

◇石島貸家王國

所謂陶朱猗頓の富を擁し儼然石島貸家王國に君臨する石島徳長(舊名敦福)氏は有り勝ちな富に委する放縱なく冷徹水の如き理性の下に家政を燬理し其の富倍々大を加へつつあるが羈絆多い町住ひを避け同時に健康の爲にも良いと云ふ一石二鳥の打算から先年來四倉の別荘より白銀の事務所へ通つてゐる

◇機械の木田敦雄氏

平窪村の木田敦雄(舊名磐雄)氏は前村長故木田源一郎氏の二男で仙臺高工機械科を出て磐炭や東京深川の磐城セメント東京支工場などに勤めたが先年來神田の元柳原に機械販賣の木田工業商會を獨力經營中

◇一代の名筆赤津氏

明治四十年秋の運動會で賣店の委員を勤めた既記の勿來局長一年志願の歩兵中尉而して大弓の名人雲香赤津[illegible]は、校內切つての名筆家、神韻縹渺たる一年生當時の眞筆は當時態々額にして校內の一部に揭げられた程で、石城出身人物輩出の淵叢たる石城造士館の看板こそ豪宕適徑なる氏の健腕直筆になつたものである

◇消防の中堅鈴木氏

卒業すると直に家業を繼いだ南町のエビス屋自轉車店主鈴木彌太郎氏は家業の傍ら消防組の中堅人物として活躍し、自動車ポンプの操縱を主宰する重要なる立場に置かれてある

# けふ晴の初登校
## 嬉々たる兒女に賑ふ

平町小學校では今一日から入學式を行つたが第一校尋常一年二四〇 高等一四〇 第二校尋常二二〇 高等一六〇 第三校一七〇名で就學の兒女は夫れ／＼新調の帽子袴をつけ父兄に伴はれ登校第一日の晴れやかな氣分を見せたが第三校では新入生歡迎の學藝會を開き盛況だつた

# 淺野翁頌德記念館
## 來月七日開館式擧行

來十四日擧行の筈であつた內郷村の淺野翁頌德記念館開館式は都合により五月七日に延期淺野現社長臨席大に執り行ふ事となつた

。。。。。鈴木磐君合格

仙臺遞信講習生の採用試驗は從來平郵便局でも執行してゐたが經費の關係から郡山に移されたので平方面の六十名は此程郡山に於て受驗の結果平町古鍛冶町鈴木磐一名が合格した

# 郡聯合青年評議員並雄辯大會
## 四十三團の代表が 九日磐中講堂に集合

第二回郡聯合青年團評議員並雄辯大會は九日午前九時から磐中校講堂に於て開催すべく決定し四十三團各一名宛の辯士を募つてゐるが優秀者には賞品賞狀を授與すると

# 中等教員異動

有田 ひさ 磐女教諭に任ず

磐中教諭 本田 忠二 相馬高女教諭に任ず
木村 重儀
菅原 勉
會田健二郎 平商業教諭に任ず(各通)
相馬高女教諭 齋藤 榮 磐中教諭に任ず
磐女教諭 皆川 まさ
平商同 高野 脩二 公立學校職員分限令第八條第一項第五號に依り休職を命ず(各通)

。。。。。上田檢事出發。仙臺へ榮轉の上田檢事は明二日午前六時五十五分平驛發磐越線で出發赴任すると

# 職業婦人戰線展開
## 百數十名中から兩三名を 近く電話事務員補充試驗

平郵便局には平常各方面から電話事務員志望者の履歷書が百數十通も集つてゐるが總人員五十名中最近婚姻した者三名あり近く二名の欠員が出來るので試驗の上補充さるる模樣であるが前記多數の希望者がある事とて極度の試驗地獄を豫想されてゐる

明二日は日曜定休、三日神武天皇祭に付續いて休刊

# 平商庭球部
## 古河との爭覇で 目下猛練習中

平商校庭球部では目下東鐵の阿部選手のコーチを受けて九日古河炭鑛と試合を行ふべく猛練習中である

# 投檜
投書歡迎

◇寄留手續に就て。。。。。

◇昨紙本欄の寄留屆に就て——內務省通達に依り大正十四年頃は職權記載をなしたが出生屆記載の現住所と戶籍臺帳の寄留地と合致せぬもの多く臺帳記載の寄留地を眞の寄留地と認める事が不可能の爲め各種の不都合を生じ其後職權記載を中止し現在之の便法は取扱はぬ

◇出生屆ある每に別に寄留屆を必要とする旨を注意するが實行するものは殆ど稀で戶籍事務取扱上其他に甚だしい支障を來す事を避くる爲町議の進言に依り特權階級にのみ職權記載をなすが如き事實は全然ない

◇今回の學齡通知も右の狀態で臺帳記載の寄留地と現住所と一致せず轉居先不明の爲め前後數回の通知書配達も徒勞に終つたもので現に寄留地と現住所の一致せぬものが全体の四分の一を占めて居る

◇要するに職權記載の便法を實行出來ぬのは町民の戶籍事務に對する無理解から來て居るもので一般は是非共その都度に寄留屆を實行して欲しい。

（一吏員）

## 磐中進學者
磐中關係其後の上級學校入學は左の如し

仙工32 伊藤國之助 高岡丈夫 橫濱高工33 遠藤正美 水野茂松 志賀勳

平署特高主任より若松署へ榮轉した小野寺軍平氏は來四五日頃出發赴任すると

青沼町長出廳。。。。 青沼町長は昨三十一日出廳當日縣廳で開催の町村長支會及今一日聯隊區で開いた國防研究會長會議に臨んだ

農事傳習會。。。。 小名濱町農會主催で五日午後一時から役場で開く

醬油品評會。。。。 磐城醬油釀造組合主催で第一回を十七八兩日平稅務署樓上で開催する

# 疾風迅雷の勢で 接客業者を臨檢
## 小名濱のカフエーから 二十五件の違反檢擧

商港の完成に依り將來の大發展を豫想されて居る小名濱町では之を當て込む各種營業者の增加に伴ひ接客業者其他に法規の違反が少からぬ模樣なので平署では昨三十日正午から理髮店の一齊檢査を執行して違反者十五件を告發し引續き午後九時から町內十八軒のカフエーを臨檢して二十五名を檢擧したが今後引續き之の方面に對する取締りの手を弛めず多數外來者の入り込む夏季中の風紀維持等に就て遺漏無きを期する方針であると

小野寺警部補 今回の異動により四五日頃出發

檢眼。。 平町本年度壯丁のトラホーム檢診は三日午前八時から第一校で執行する

說論。。 昨三十一日夜平町南町料理店を素見して歩く擧動不審な男を巡邏中の平署員が發見取調るご右は水戶市下市自轉車修繕業增造二男梅原增次(三)で二十九日集金を費ひ込んで兩親に叱責された面當に無斷家出して來たものと判り說論の上歸宅させた

。。デフ 內郷村宮田代久治(三)は昨三十一日デフテリアと決定隔離された

## 四倉通信

學校增築直營。。。。 四倉町會は昨三十一日午後一時より開催、學校增築を町直營とする事に決定した

貯蓄獎勵浪曲。。。。 四倉信用組合主催の貯蓄獎勵浪花節は明後三日午後七時から四倉座で開催する

水救會長異動。。。。 四倉水難救濟會長吉田壽三郎氏は此度家事都合上辭職したので後任として漁業組合長宮波末吉氏が兩三日中に選任される

## 艷界黑白

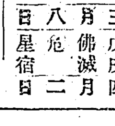
◇今年も愈々けふから四月に入り漸く鼻より先きに商が出ると云ふ山櫻の季節になつたので例の山形家の小歌さんの一席なご紹介に及ぶ◇四五日前の或る晩本店の御座敷へ出て居たが何となく胸騷ぎがするので大事なオンリー。ワンちやんが風でもひいて苦しんでゐるのでは無いかと心怪しく亂れ始めてアクと直ぐ樣飛ぶ如くに歸つて見た處◇他に別條は無かつたが寢しなに一いきこし召す心算で押し入れの隅へ忍ばせて置いた白菊の一升德利が空つぼになつてゐたとは、けふのエプリルフールで惡太郎が企らんだうそとばかり思へぬ節がある。

## 平町慶弔錄

△出生
新川町一八東京市淺草區小谷二丁目五橋本庫太郎二男勝彥
舊城跡一茨城縣西茨城郡大原村小原一〇四小坂部忠次二女隆子

△婚姻
東京市大森區野倉町四四一五十嵐宗惡(三)四町目三六加藤キク(三)

▲死亡
仲間町七六東京市品川區上大崎中丸四四四ノ一四〇時山時哉(三四)
撫槌小路二四橫濱市保土ヶ谷區岩間下町一一三三大里節子(一)



| 舊 | 日曜 | 新 |
|---|---|---|
| 三 | 戊戌 | 四 |
| 月 | 佛滅 | 月 |
| 八 | 危 | 二 |
| 日 | 星宿 | 日 |

階判定廳齋 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 一時は發展する如く見へても半途にざ折す▲二黑の人 險氣に閉さるべく氣を晴々と持つが尤肝要▲三碧の人 氣運は平靜を保つ焦らざれば追々と良化す▲四綠の人 心中に多少の苦勞あれども迷はず進むに吉▲五黃の人 去就決せずして機を失ふ思立てば準備に吉▲六白の人 徐々と達成の途に入らんとす努力の功あり▲七赤の人 口を愼み骨折を辭せざれば意外の吉慶あり▲八白の人 目先きの小事は成れども大事は破れ易き日▲九紫の人 忠實に本分を守りて怠らざれば相應の利得

學生靴──大賣出し
斯界のナンバワン大塚の靴
女學校…指定靴 五、九〇
中等校…自製靴
靴ダビ 靴バスケ 靴ミヤ 景品付のサービス
同ボックス革 短靴五、〇〇ヨリ 編上靴六、〇〇ヨリ
小學生…通學靴
大量製作 大塚製靴部 運動具部
平・田町 電話七十七番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
寒暖計 體溫器
◎秤ノ取[illegible]修繕[illegible]致シマス
開內藥局 電話四〇番

看護婦募集 (醫院勤務經驗ノアル者)
本人面談
植田町本町 前田醫院 電話一二四番

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戶線下館驛前(電話五五番)
營業種目 石油揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ……(型錄進呈)
店所在地 茨城縣土浦町田宿(電話六五三・八二四) 常磐線關本驛前(電話牛潟五四) 常磐線四倉驛前(電話四八)
◇安全、便利、經濟のスタデナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンシヨーストーブ

有給社員招聘
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮鬪ノ士ヲ望ム
在郷軍人退職官吏優遇
(初任者指導ス)
希望者ハ履歷書急送アレ
郡山市柏下三二番地
富國徴兵保險相互會社監督部
徴兵保險ハ相互ニ限ル本邦唯一ノ相互保險